

おすすめブナ林

山越 沙織

saori yamakoshi

私は千葉県にある東邦大学の4年生です。きのこで卒業論文を書きたい!と思い、アンモニア菌をテーマにしました。今は吹春師匠のもとで、日々「珍アンモニア菌」がはえてこないかどうか目を皿のようにして見張っています。が、期待もむなしく、もばっらポピュラーなきのこばかりがによきによきと嬉しそうにはえてきます。私の気合いが足りないのでしょうか... 季節はもう冬、はたして卒論の締め切りまでに「珍アンモニア菌」と出会えるのだろうかとか少々不安になりつつある今日この頃といった感じです。

アンモニア菌を育てるためには有機物をたっぷり含んだ栄養満点の土壌をとってきます。分解しかけた落ち葉や枝等が程良くミックスした土だときのこの育ちが良いような気がします。そして土の重さを量り、尿素を撒くと1、2週間ほどできのこがはえてきます。土壌を採集した林は主にブナ林です。私がとってきた土の他に、大学で所属し

ている研究室がブナ林をやっているのので、研究室の人にとってきてもらった土も使いました。研究室のフィールドは山梨県と神奈川県の間にある三国山のブナ林と、北海道の黒松内町にある有名なブナ林です。ブナの芽生えの追跡調査や、種子の食害の調査などを行っています。

三国山をはじめ丹沢や秩父のブナ林は太平洋型のブナ林と呼ばれ、イヌブナなどが混ざります。太平洋型のブナ林は稚樹があまり育たず、また、大気汚染の影響が立ち枯れるといった話もよく聞きます。一方、白神山地や栗駒山のブナ林は日本海型のブナ林と呼ばれ、ミズナラなどが混ざり、こちらは生気がみなぎっています。このように生き生きとしたブナ林の中に居ると、こちらもパワーをもらったような気分になります。そこで皆さんにもブナ林パワーを胸一杯吸い取ってほしいと思います。私がおすすめるブナ林を少しですが紹介したいと思います。

おすすめブナ林

1、宮城県大和町升沢船形山のブナ林 (五万図：仙台)

東北自動車道大和ICから車で30分程、旗坂キャンプ場の駐車場に車を停めると目の前はもうブナ林。きれいな川も流れていました。キャンプ場の周辺は立派なブナが立ち並びます。キャンプ場の脇を抜け、吊り橋を渡り、登っていくと若いブナの林が広がります。10月の上旬でしたが人も少なく割と歩きやすい道でした。

とても素晴らしい林なのですが、蚊が非常に多く(刺されるとちくちくとしてなかなか腫れがひかない)、虫避けスプレーをしなかった師匠はボコボコに刺されていました。現地を案内してくれたのは、この辺りを庭としている安藤さんというカラオケ上手な素敵な方で、完璧な蚊避けルックをしていました。

きのこはナラタケがたくさんありました。あとミミブサタケやムカシオオミダレタケ(昔大いに乱れたきのこなんだよと師匠がウソを教えてくださいました。本当の和名の由来は保育社の続原色日本菌類図鑑に詳しい)なんかもありました。福島から来たきのこ採りの人たちはブナハリタケやクリタケなどをわんさか採っていました。師匠と安藤さんが同定をしたお礼に麦せんべいをもらいました。

2、新潟県上川村日尊の倉山のブナ林 (五万図：只見)

磐越自動車道津川ICから車で1時間程、福島県との県境にむかって林道をぐねぐねと登っていくと、いつのまにかブナ林の中を走っていました。ここは一帯がブナの原生林になっていて、本当に立派なブナを見ることが出来ます。きのこはブナシメジなどがはえていました。この時は研究室の人たちと行きました。現地のおばあちゃんがばらばらになったきのこをビニール袋にぎゅうぎゅう詰めにしたものをくれました。何のきのこか分からなかったので師匠に電話をして聞いたところ「それはナラタケだよ」とのお言葉。よく見てみると本当にナラタケだ。「師匠ありがとう!」と叫びながら鍋に入れておいしく頂きました。上川村には御神楽温泉など良いところが結構あるのでおすすめです。

2カ所とも関東からはちょっと遠いですが、近くへ行ったついでに寄ってみてください。